

県政レポート 歩く眼 第29号

永瀬ひでき

ながせ



一般質問特集

スポーツによる地域活性化を提言 未来を切り拓く、地域と県政をつなぐ掛け橋として

今号では、スポーツコミッションの設立をはじめスポーツによる地域活性化について、県議会一般質問において提言した内容（概要）を報告させていただきます。

スポーツコミッションの設立について

永瀬秀樹の質問概要

スポーツツーリズムを地域で推進していくためには、旅行の目的地となる都市や地域において、その仕組みを動かす専門の組織、スポーツコミッションが必要です。私は、平成28年12月定例会で、今こそ本県もスポーツコミッションを設立すべきだと提言したところ、県は「スポーツコミッションは有効な方策の一つになるのではないが、設立については鋭意検討する」との答弁をいただきました。その後、県はどのような検討をされたのか、平成30年6月議会で質問しました。



埼玉県は首都圏に立地し交通の便が良く、スポーツイベントや合宿で使うことのできる様々な規模のスポーツ施設を所有していることに加え、平地と丘陵、山間部が併存し、気候が温暖でマラソンやサイクリングなどの競技やイベント会場に使える道路や林

道、山や川などの地域に隠れた資源が豊富に存在しています。我が県は、スポーツツーリズムの推進に適しています。これらの資源をどのように活用するかを考える専従スタッフをそろえた組織の有無が、今後の県の活性化を考える上では極めて重要であると考え、改めてスポーツコミッションの設立を検討するよう県に提言しました。

県の答弁

永瀬議員から提言をいただき、他県の状況を調査するとともに、スポーツや観光の有識者の方から意見を聴取しました。

まず、県規模で組織を立ち上げているのは沖縄県や宮崎県など5県。この他、県の行政組織にスポーツコミッションの専担組織があるところが2県。専担組織がなく機能のみのところが5県でした。

有識者からは、「スポーツと観光をうまく結びつけることが大切」とか「地元や民間が自ら動き出すことが大切である」などの意見をいただきました。

そこで県では、本年4月に策定した埼玉県スポーツ推進計画において、主要施策の一つに、スポーツコミッションの目的であります「スポーツを通じた地域活性化」を掲げ、スポーツイベントの魅力アップや、スポーツツーリズムの推進に取り組んでいます。

次に、スポーツコミッションの設立の検討ですが、県では平成29年度から定期的に、市町村との会議や経済関係団体との意見交換の場をもっています。その中で、スポーツイベントの誘致についての情報を共有するほか、ホームタウンスポーツの推進策を話し合うなどを行っています。また、マラソンやランニングを通じた地域振興のため、県内自治体や民間企業で構成する連絡協議会を開催しています。こうした取り組みはまさに、県がスポーツコミッションの機能の一端を担っているものであると考えています。まずは、現在のスポーツコミッションの機能を更に発展させるとともに、専担組織やスポーツコミッションのような組織の必要性について、引き続き検討をしてまいります。

屋内50mプール整備による地域経済の活性化について

永瀬秀樹の質問概要

スポーツ施設の整備、活用を検討する際は、スポーツを通じた地域経済の活性化を目指すと言われています。現在、県が新たなスポーツ施設として屋内50mプールの整備を検討していると存じます。

私の地元川口市をはじめ、県内では幾つかの自治体が誘致に積極的です。現在、検討を始めている屋内50mプールの整備に関し、スポーツを通じた地域経済の活性化を目

指すべく、事業仕様や事業費用の軽減、収入の確保につながる一般の方の利用促進などの観点から、周辺人口や交通の利便性など、様々な検討が必要であり、県としてはどのように考えているかを伺いました。

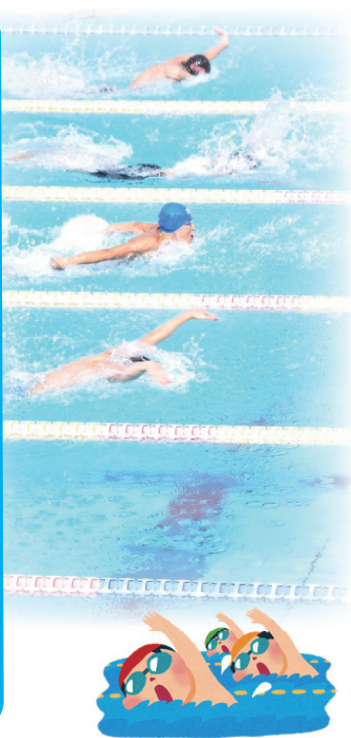
県の答弁

昨年度は県水泳連盟の代表など関係者による会議を立ち上げ、専門的な立場から幅広い意見をいただきました。

施設の規模や機能については、「全国大会も開催可能な規模にしてほしい」「競技力向上のための最先端技術での支援や、近隣に宿泊施設があることが望ましい」などの意見をいただきました。また、収入の確保のためには、「一般県民向けの水泳教室や施設の貸出しを行ってはどうか」という意見もありました。

整備場所については、県内全域からアクセスしやすい交通の利便性や駐車場の確保が重要と考えています。さらに、観客はもとより、一般県民が利用しやすい場所であることも大切です。

県としては、施設の機能や規模、事業費の縮減や収入の増加などの観点から、交通利便性や一般県民の利用のしやすさなどについて検討を行ってまいります。



オリンピックに向けた気運醸成

～聖火リレールートを選定について～

永瀬秀樹の質問概要

オリンピックに向けた機運醸成をオール埼玉で高めるために、最も効果的なイベントが聖火リレーです。組織委員会の細かい規定に縛られる部分が多いとはいえ、ルートを選定は各県で決めることができます。既に平成29年6月、川口市も奥ノ木市長から知事に、市内を通り、聖火台のある青木町公園を經由し、日光御成道である国道122号を経て東京都に至るルートの要望を提出しています。

1964年に開催された東京オリンピックで聖火がともされた聖火台は、川口市の鋳物の名工、鈴木文吾さんが製作されました。一時、震災復興支援として石巻市に設置され

ていたこの聖火台は、実は第2作目で、第1作目は鑄造過程で破損してしまい、その後、修復され現在はレプリカとして青木町公園に設置されています。聖火台の製作地である川口市をはじめ多くの地域から、聖火リレールートへの誘致要望が上がっており、私はそうした県内各地域の要望に応え、オール埼玉の機運醸成とスポーツによる地域の活性化につながるルート選定とするために、選考に際し、投票やアンケートなど、県民が選考に参加できる何らかの方法を取り入れてはどうかと提言しました。



県の答弁

県内を聖火リレーが走る3日間、県民の気運を最高潮にまで高め、埼玉の魅力を世界にアピールしたいと考えています。

ルート選定に当たり組織委員会は4つの考え方を示しています。1つ目は多くの人が見られる場所、2つ目は安全確実に実施できる場所、3つ目に地域が国内外に誇る場所、そして4つ目に聖火リレーで新たな希望が生まれる場所となっています。

今後、県の実行委員会でルートの選定を進めますが、こうした要件を満たす場所などについて、市町村の考えを把握する調査を行います。

議員ご提案の、県民から直接、投票やアンケートで参加してもらう案も、開催気運の高まりを全県に波及させ、スポーツによる地域活性化につなげるためには大変有効な手法であると考えます。組織委員会は「県の実行委員会で選考する」との枠組みを示していますので、その中で議員ご提案の趣旨を生かせるよう、早速検討に着手します。

スポーツコミッションの設立について、県は未だ兼業的な取り組みで十分だと認識し、かつ他県が余り取り組んでいないために、尻込みしているように感じます。現県政の事なかれ主義的な姿勢が表れた答弁ではないでしょうか。

スポーツツーリズムをはじめスポーツを活用した地域活性化には、有能な専従スタッフをそろえたスポーツコミッションの設立が不可欠です。他県より少しでも早く取り組みをスタートさせて、スポーツツーリズムの先進県として、本県の魅力を全国に発信することが重要だと考えています。

その他、屋内50mプールの整備、及び、聖火リレーのルートの選定において、川口市への誘致が実現するよう、川口市を代表する県議会議員として県にしっかり働きかけてまいります。

あなたのご意見をお聞かせ下さい。

自民党県議団 県政調査事務所

〒332-0012 川口市本町4-8-12-102 Tel.048-223-6050 Fax.048-223-6170